

私たちのどの位の少し下の、蝶々に似た形をしたホルモンを出す器官、これが甲状腺です。甲状腺の病気は男性より女性に多く、このホルモンが増えすぎるか、正常より出が悪くなるか、ホルモンは正常に出ているもコブができるかの三つに分かれます。

1. ドキドキ。暑がり。手の震え。やせる(甲状腺機能亢進症)

甲状腺ホルモンが増えすぎると、落ち着きがなくなり胸がドキドキしたり、暑がりになったり、手先が震えたり、軟便気味になったりすることがあります。ホルモンが少し高いだけなら活動的で元気にもみえますが、病状が進んでくると体重が減り、すぐに疲れてしまいます。甲状腺が腫れてホルモンの産生にブレーキが利かなくなる病気がバセドウ病です。健康診断ではコレステロール値が低すぎたり、アルカリフォスファターゼ(ALP)という酵素が高すぎたり、心電図で不整脈を指摘されることもあります。治療はまず薬で脈を抑えたり、甲状腺ホルモンを抑えたりします。薬の副作用もなく、しっかりと治療できれば2〜3ヶ月で症状は取れますが、治るまでは普通数年かかります。もし薬の副作用が現れたり、甲状腺が非常に大きい場合はアイントープ治療という放射線治療や、手術治療を考慮します。

バセドウ病以外でも、甲状腺が炎症で壊れてホルモンが多くなり過ぎることがあります。甲状腺に痛みを伴わない無痛性甲状腺炎は、出産やストレス、色々な薬剤がきっかけで起こり、甲状腺機能亢進症状が強くなります。また風邪をひいたあとなどに甲状腺が腫れて痛くなる亜急性甲状腺炎もホルモンが多くなり過ぎる病気です。これらも適切な治療をして完全に治る病気です。

2. 寒がり。むくんでる。い。しわがれ声。動きが鈍い(甲状腺機能低下症)

甲状腺ホルモンが足りなくなる病気の代表は橋本病です。この病気は日本の橋本策博士が約100年前(大正5年)に世界で初めて報告しました。今でも世界中で日本語の名前で呼ばれている数少ない病気の一つです。初期は甲状腺が硬く触れますが長い間ホルモン値は正常ですので、治療も必要ありません。ゆっくりと進行して甲状腺ホルモンの値が低くなると、バセドウ病とは逆の症状、寒がりや汗が出ない、むくむ、だるい、動きが鈍くなる、眉毛が薄くなるなどの症状が現れてきます。このような症状はゆっくり現れてきますので見逃されやすく、かなり進行して心臓肥大やコレステロール高値などで見つかることもあります。高齢

者では認知症と似た症状で出てくることもあり注意が必要です。甲状腺機能低下症の治療は適切な量の甲状腺ホルモン剤をゆっくりと補充することで全ての症状が改善します。しかし出産後に一過性に起こる甲状腺機能低下症以外は生涯甲状腺ホルモンを飲み続ける必要があります。

3. 甲状腺にこぶができる(甲状腺結節)

甲状腺結節(腫瘍)は小さなものも含めると多くの方に見られます。約80%は良性です。甲状腺のこぶに気が付くと、まずよく触って、超音波検査で内部を観察します。ここまで多くは診断可能です。さらに精密検査では甲状腺に針を刺して、取れた細胞を顕微鏡で見つめます。いずれも外来の検査で、10分位でできる検査です。良性腫瘍と診断されれば、多くは1年おきの検査で観察します。がんや診断されても甲状腺がんの90%は非常に進行が遅く、多くは手術で完治します。

ここにあげた甲状腺の病気は20歳代から40歳代位の女性に多く、ホルモンの変化は妊娠、出産にも関係してきます。適切な診断治療がされれば、手術が必要なものを以外、多くは入院せずに治療可能です。もし前記のような症状に気がついたら早めに医師に相談してみてください。

わたしたちの健康

日曜・休日に実施している医療機関

午前10時～午後4時

月日	場所	施設名	科目	☎(048)	場所	施設名	科目	☎(048)
4	朝霞	鈴木内科	内・小	473-6611	志木	田口皮膚科医院	皮	473-8889
	朝霞	あさか心のクリニック	内・精・心内	458-5561	和光	富澤整形外科・内科	整外・リウ・泌・内・消内・リハ	468-3456
10	志木	志木ホームクリニック	内・小	487-1255	朝霞	はねだクリニック	内・外・消内・肛・放	469-2139
18	朝霞	塩味クリニック	内・小	461-6100	和光	佐々木眼科医院	眼	467-0071
25	和光	田中医院	内	461-2060	新座	清水医院	内・外・循内・皮	476-2111



※当番医は変更になる場合もあります。確認してからお出かけください。